

## 第1回 安倍川総合土砂管理計画フォローアップ委員会・作業部会 議事録（速報）

- 日時：平成26年12月10日（水）15：30～17:30
- 場所：サンパレスホテル2階会議室（スターパレス）
- 議事内容

### 1. フォローアップ委員会・作業部会の規約及び安倍川水系河川整備計画変更手続き

- (1) (司会) ただいま、事務局より説明した内容について、質問ご意見等ありましたらお願いいたします。

⇒ (各委員) [質問意見なし。]

(司会) 意見等がないようでしたら、規約についてご承認頂けたとしてよろしいでしょうか。本日を持ちまして、委員会及び作業部会の両規約が成立したこととさせていただきます。

(司会) また委員会規約第4条及び作業部会規約第4条で、委員会の会長、作業部会の部会長は「委員の互選によってこれを定める」とあります。

事前に、委員の皆様にご本日の事前説明に伺った際に、委員会会長は、中央大学の福岡先生、作業部会会長は、名古屋大学の戸田先生が適任との意見を伺っております。よって、委員会会長は、福岡先生、作業部会会長は、戸田先生にお願いしてよろしいでしょうか。

⇒ (各委員) [意見なし。]

### 2. 土砂管理対策の実施状況及びモニタリング結果等

- (1) (委員) 土砂流出・生産領域での事業実施状況について整備土砂量とはどういう意味か。土砂を止めるということであれば、総合土砂管理の土砂を流すことと異なるのではないか。
- ⇒ (事務局) 整備土砂量は砂防えん堤にて土砂を補足する土砂量のこと。土砂を止めた場合、下流で何が起こるか確認していく必要があると考えている。計画策定時の河床変動シミュレーションは支川が計算区間に入っていないため砂防えん堤の効果・影響が分からない。本日の議題にある「土砂動態シミュレーション精度向上」では、支川をモデルに組み込む提案をしており、それらを活用しながら今後検討していきたい。
- (2) (委員) 海岸領域で離岸堤を整備とあるが、土砂を止めるのではなく連続性を確保することが重要なのではないか
- ⇒ (静岡県) 局所的に浜幅を回復させるために実施している。将来的に土砂の連続性が確保され、土砂供給が十分になれば施設をなくす方向で考えている。
- (3) (委員) 総合土砂管理策定時に議論されていない整備計画、砂防施設整備、維持管理といった情報が出てきている。河道掘削や河岸防護といった個々の対策も重要であるが、総合土砂管理としてはまず砂防から海岸までを対象とした大きな視点での議論が必要である。
- (4) (委員) 総合土砂管理計画は、河川整備計画では内数となっている。整備計画との整合の中で、抜け落ちている項目はないかなど、再度整理して委員会に示してほしい。総合土砂

管理計画で位置付けた内容が、砂防計画や河川整備計画のどの項目に影響するかを整理すること。

- (5) (委員) 今後、河川整備計画と総合土砂管理計画の整合性を再確認して示していきたい。
- (6) (委員) 実態の把握に LP 測量は役に立つ。LP 測量を実施している頻度はどれくらいか。また、今後モニタリング結果を評価するようなシミュレーションは実施するのか。実態把握では、モニタリングとシミュレーションの併用が重要であると考ええる。

⇒ (事務局) LP 測量は直轄区間では毎年、砂防区間では不定期であるが大規模出水後などに実施している。

現モデルは、長期の表現はできるが、短期の表現ができるモデルを構築する必要があると考えている。支川からの流量や河床材料調査を踏まえ、精度の向上を行った上で、モニタリング結果の評価（土砂収支のチェック）に使用していく。

- (7) (委員) 整備計画との整合は重要であるが、整備計画になるととたんに河川の話になってしまうので、委員会での検討結果を「整備計画に位置付ける」と言いすぎないように注意すること。

### 3. 課題に対する解決スケジュール（案）及び土砂移動シミュレーション精度向上検証、河岸防護施設配置計画（案）

- (8) (委員) あまりに微細構造に入り込んでいないか。総合土砂管理は大局的に見るのが重要である。河岸侵食対策はそれはそれで重要であるが、土砂管理としては大局をとらえることが重要である。各領域のつながりが大事であり、大局を意識しながら方向性を決めてほしい。
- (9) (委員) 今後土砂収支をどのようにチェックしていくかが重要であり、それに結びつくモニタリングをして、全体としてチェックしていくことが重要である。また、土砂に関わる環境の問題はクローズアップされていないがモニタリング項目として挙げるべきではないか。
- (10) (委員) 上流域のシミュレーションは敏感であり変動が大きいことを認識する必要がある。その意味でもモニタリング箇所が少ない。対策した箇所でモニタリングを実施しても変動は少ないため、モニタリング箇所を増やす必要がある。構造物周辺だけでなく、上流域全体の土砂動態をモニタリングにより把握することが重要である。
- (11) (委員) 本委員会は、総合土砂管理として重要なところをフォローアップするという整理は良い。整備計画のために議論をするのではなく、あくまで、本委員会での議論を整備計画に反映するという立場である。
- (12) (委員) 土砂収支の入口（上流端）と出口（海岸）を把握することは非常に難しい。まずは、モデルに注力するより、出口である海岸部分のモニタリングをしっかりと実施したほうがよい。
- (13) (委員) 土砂管理目標と管理指標とどちらが上位か。浜幅とか河床高とかが達成すべき目

標値ではないのか。モニタリング結果に大きな変化があった場合、土砂収支が変化していると想定されるので土砂収支を確認すればよいのではないか。また、シミュレーションに関してはまず短期の再現性を確保することが重要である。10年20年の計算の場合、洪水時の局所的な洗掘堆積現象が把握しきれないのではないか。短期の再現性があれば結局は短期の積み重ねなので長期的にも再現性は確保できる。

- (14) (委員) まずは計画を見直すことより作成した計画をしっかりと実行することが重要である。そのためにはまずモニタリング調査を実施し、実態把握のために足りない項目があれば追加で調査していくことが必要である。シミュレーションも今あるモデルを基本として用いながらとられたデータで補完しながら進めるのが良い。

よって、事務局で提案して頂いた①支川・溪流の河床材料調査の実施、②支川・溪流の流量把握、③土砂生産領域の粒度分布調査を実施していくことで良い。

また、河岸防護施設配置計画(案)も事務局で提案して頂いた方針で実施していくことで良い。

#### 4. 海岸領域における取組状況の報告：静岡県

- (15) (委員) 海岸領域から総合土砂管理計画に求めることはあるか。
- (16) (事務局・静岡県) 現況の土砂供給量を元に対策の検討を行っているので、現在の土砂供給量を今後も担保してほしい。

以上